



豚の新しい凍結受精卵移植方法 「追い移植法」を開発

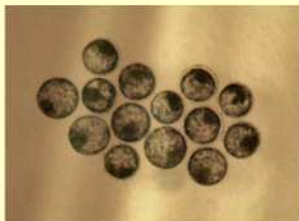
— 豚の凍結受精卵から効率よく子豚を生産できます —

開発の背景・ニーズ

豚の凍結受精卵移植は生産農場での活用が期待されていますが、子豚の生産効率の低さから、その利用は一部の研究機関等に限定されています。そこで、従来の方法よりも効率よく子豚を生産でき、一般の生産農場でも利用可能な技術の開発に取り組みました。

成果の内容

- 豚の凍結受精卵は、直接代理母豚に移植しても妊娠が維持されず、半数以上が分娩に至りませんでした。
- 今回開発した「追い移植法」は、人工授精により予め代理母豚を妊娠させた後に凍結受精卵を移植する方法です。一般の養豚農場でこの手法の実証試験を行ったところ、凍結受精卵を移植した代理母豚4頭中3頭から延べ13頭の凍結受精卵由来産子が生産され、従来の方法より2倍以上の効率で凍結受精卵由来子豚を生産できました。



移植に使用した豚凍結受精卵

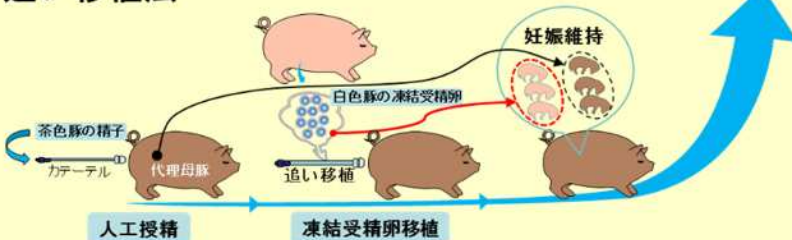


一般の生産農場での移植成績

	従来の方法	追い移植法
実施頭数	6頭	4頭
分娩率	33.3%	75.0%
産子数* (平均)	3.0頭	4.3頭

*：分娩した場合の平均産子数
代理母豚1頭あたり15個移植

追い移植法



愛知県農業への貢献

現在、豚肉生産の基となる種豚は生体により流通しています。生体による流通は豚コレラを始め、伝染性疾患伝播リスクが高いため、代替手段が求められていました。今回開発した技術により、一般の生産農場での子豚生産が実証されたことから、生産現場での活用が期待できます。

【本研究は、農研機構 革新的技術開発・緊急展開事業「超低温保存胚の子宮体部非外科的移植を利用した生産農家への低リスク低コストな高能力種豚導入実証」で実施した成果です】